

オセアニア・オーストラリア



留学体験談

先輩が語る！

所属：国際総合学類

留学した時期・学年：2014年5月～大学3年次の春秋学期

留学した大学：アデレード大学

留学先での専攻・所属：International Studies

奨学金の有無・奨学金の名前：なし

【留学について】

Q1. 留学の目的、動機などを教えてください。

中学生時代から抱いていた「とにかく英語が話せるようになりたい」という憧れと目標

Q2. 留学先にその大学（国）を選んだ理由を教えてください。

留学の雰囲気を知ろうと参加した二年次での大学主催の短期海外研修でアデレード大に行き、安全や生活しやすさに問題がなく、街と人が気に入ったため。英語圏を希望していたため。

【大学について】

Q1. 留学した大学の校風を教えてください。

留学生が多いため生徒も多種多様で学部也多岐に渡っており、イベントも多いので安全的に自由な印象。一方で、開放的ではあるが勉強熱心な学生が多いので大学としての雰囲気は砕けすぎていない。都市の中の大学という雰囲気同様、オープンかつ伝統的な校風だと感じた。

Q2. 留学した大学での学生の様子を教えてください。

アジア人が多いが日本人は極端に少ない。留学生が多いため、現地の学生も外国人に慣れており良くも悪くも特別意識は全くない。オープンで社交的、明るい学生が多いが課題やテストには真剣に取り組む学生が多い印象。

Q3. 留学した大学での留学サポートについて教えてください。もし利用していたら、その様子も教えてください。

チューター制度のような制度がありましたが、チューターのあたりはずれが大きかったです。自分のチューターにメールをしても返信がないという友達にもいました。私はチューターとはメールのやり取りはしていましたが、あちらが忙しすぎて一度しか会えませんでした。

Q4. 留学先で入っていたサークルなどがあれば教えてください。また、どのような活動をしていましたか。

Japanese Language Club (JLC)というクラブがあって日本語を学びたい現地の学生と日本人学生が言葉を教えたりイベントを開いたりして交流しているクラブに数回参加した。現地学生の友人ができるが、日本人同士で日本語を使う機会も増えるので考えながら利用すると思う。

【学習について】

Q1. 留学先ではどのような授業を取っていましたか。授業数も覚えていたら教えてください。

オーストラリアの法律で学部生は9~12単位が取得できる(1単位=2時間の授業+1時間のtutorial)。文系の学部だと課題は基本的にレポートであり、中間レポートや期末の時期は各授業ほぼ同じなので、普通の授業や予習等がこなせてもレポートが重なると厳しいこともあるため、よく考えた上で履修すると良いと思う。

Q2. 留学先で一番印象に残っている授業はどの授業ですか。簡単に内容も紹介してください。

Global Transformationという授業は基本的な国際関係学に関する諸理論を扱う授業であるが、先生も授業に工夫を凝らしていて、常に新しい発見や視点を与えてくれる授業だった。小人数で行われるTutorialでは常に自分の考え・賛否の立場を明らかにするよう求められるので、国際政治を学ぶ現地学生の博識さと意見を伝えるアグレッシブさを目の当たりにできると思う。

Q3. 筑波大学での授業の様子と比較して、留学先での授業はどうでしたか。気づいた点があれば何でもよいので教えてください。

授業自体は、教授の問いかけに積極的に発言する学生が多いといった点以外はさほど変わりはない。しかしすべての授業に小人数かつ積極的な参加が求められる(討論や議論、グループワークが多い)tutorialがあり黙っていれば成績が来るということはまずない。しかし、正解不正解を決めつけることはなく、non nativeの英語にもしっかり耳を傾け理解しようとしてくれる先生/チューターや生徒が多いので、内容の正しさや言葉に関して考えすぎずに学問に向かい合う楽しさを感じられれば良いと思う。

Q4. 留学先での学習において、もっとも必要だったと思うアカデミックスキルは何ですか。(ライティング、スピーキング、リスニング、リーディング、リサーチスキル、クリティカルシンキング、コミュニケーション能力など)

Critical Thinkingに関してはかなり強調して各授業でアナウンスされ、それを伸ばす課題や授業構成が与えられるので留学を通してしっかりと身につけることができると思う。個人的には授業開始後すぐに、授業や議論をする際のリスニング能力の必要性を強く感じた。また、レポートや書評等に関しては資料活用や書式、内容に関してもかなり厳しく、私は甘く見ていたら痛い目にあったのでそういった点も理解しておくといいかもしれない。

Q5. 上記に回答した内容で、留学に行く前にできるだけ身につけておけば良かったと思うスキルはありますか。

リスニング含め、読む書く聞く話す能力に関してあげておいて損をすることはまずないので、できるだけ高い力を付けておくと思う。アカデミックライティングにはおおよそのテンプレートがあるので、留学前に語学学校等でそういった準備をしない人は予め学んでおくと思う（必要な時日本語の教本が欲しくなっても海外からの入手は意外と簡単ではないので渡航前に買っておくと思う！）

Q6. 留学に構えて、どのような準備学習を日本で行いましたか。また、おすすめの学習法があれば教えてください。

【語学について】

留学前のTOEFLに向けた勉強が英語力の底上げに役に立った。私は大学準備コースのような現地の英語クラスでアカデミックな英語や表現を学んだことが非常に役に立ったと思っているので、そのようなコースに行かない人は独学で学ぶと思う。

Q7. 留学先での指導員、もしくは授業の担当教員とのコミュニケーションはどうでしたか。なにか気づいた点があれば教えてください。

教授あるいはtutorがとても近い距離かつ親身に相談に乗ってくれるの、課題に関して困ったらまず相談してみるといいと思う。ただし力が伴わない場合も遠慮なしに辛口コメントが届く場合もある（経験あり、...）。

【ライティングについて】

Q1. 留学前に、どのようなライティングの学習をしましたか。

準備コースでアカデミックライティングを学んだことは非常に役に立った。レポート内での動詞の重複を避けるための語彙や基本的なルール、引用に関する知識や体裁をかなり厳しく教え込まれた。

Q2. 筑波大学でのレポート（日本語、外国語）と比較して、留学先でのレポートはどうでしたか。

私がいた学部では基本的には提出前に担当教員にアポイントをとって内容に関して話し合うのが一般的であった。テーマと設問の間のズレや論理の矛盾点の指摘等自分だけでは気づけない点も多いので特に留学生は利用することを勧めたい。評価やカンニングに関してはとても厳しいので（ネット上の資料との一致度をコンピューターで調べ一定の度合いを超えるとカンニングとされ処分される）、その点についても注意したい。

Q3. 学先のレポートで困ったことがあった時、どのように解決しましたか。

担当教員に相談し、必要であればライティングセンターへ行く。

Q4. 留学先にライティングセンター（もしくは類似する学習支援機関）はありましたか。

各授業の教授/チューターがレポートごとにoffice hourを設けてくれているので、行くとテーマ決めや内容、構成等の相談に乗ってくれる（個人的にはこれなしでのレポート作成は厳しいと感じた）。ライティング等に関しては大学の共用スペースにライティングサポートや資料集め、構成をアドバイスしてくれるボランティアの人がいて、雰囲気もとてもカジュアルでオープン。

Q5. 上記の期間を利用していたら、その様子を教えてください。

利用者も多く、ボランティアの人也非常にオープンで優しく助けてくれる。

【生活について】

Q1. どのような部屋に住んでいましたか。（寮、アパート、ルームシェア、ホームステイ等）

ホームステイ

Q2. その部屋はどのようにして探しましたか。

インターネット。大学で紹介されるホームステイを利用することも可能であり安全度は高いが、時間がかかるため個人的に探した。

Q3. 部屋を決めるときの注意やアドバイスなどがあればお願いします。

有名なサイトでも見に行くと写真と違った/人が違った、などトラブルがあると聞くので大学の仲介が一番安心（ただしやや時間がかかるので余裕を見て）。個人で探す際も必ず実際に見に行くことが必要だと思う。

Q4. お金の管理はどのようにしていましたか。奨学金や親からの仕送りなど、どのように受け取っていましたか。（現地銀行口座の開設、日本の銀行口座から送金、国際銀行の口座開設、クレジットカードでのATM利用など）。

親からの仕送り。

日本から円で振り込むと現地のオーストラリアドルで引き落とせる金融機関を使用していた（手数料がかかる）。日本と違い各地にATMがあるので引き落としには困らないと思う。

Q5. 留学先でアルバイトはしていますか。もしアルバイトをしていたら、その様子を教えてください。

なし

Q6. 留学先での人間関係を築くにあたって、大切だと思うことがあれば教えてください。また、日本での人間関係との差異もあればお願いします。

英語の流暢さを気にして思うように人間関係が築けなかったりしてしまうかもしれないが、英語はコミュニケーションのためのツールということを忘れずに、気軽に人と接すると思う。日本とは違って特にオーストラリアは様々な人種・宗教的バックグラウンドの人がいるので興味を持って聞くのはいいことだが、聞く際の姿勢や態度には気をつけて損はないと思う。

Q7. 大学以外でもコミュニティに参加しましたか。もし参加していればその様子を教えてください。

ホストファミリーと一緒に毎週教会に行っていた。地域の人とは同世代の学生だけに限らず、様々なイベントもあるため様々な人と交流できた。

Q8. その他、日常生活や人間関係について気づいた点があればお願いします。

留学先で出身国のコミュニティに所属するのは安心感もあり言葉・文化の面でもコミュニケーションしやすく楽しいと思うが、ある程度自分で管理しないと留學生活がそのコミュニティ内での交友関係に終始しかねない（個人的には日本語や日本人の友人を遮断する必要はまったくないと思うが）ので意識しておくと思う。

【治安について】

Q1. 留学した大学、留学先の街の治安はどうでしたか。

安知は経験した限り心配ないレベル。ただし8時以降はほぼすべてのお店が閉まるので明かりがなくなり、バーが多いエリアもあるので気をつけるに越したことはない。大学でも盗難等は聞いたことはなかった。

Q2.安全に暮らすための注意やアドバイスがあればお願いします。（危険な地域、しないほうがいい行動など）

夜遅くまで出歩けない、オーストラリアはカード社会なのであまり多額の現金を持ち歩かない方がよいと思う（引き落とし時にも注意）。

【経済面について】

Q1. 留学全体でどれくらいかかりましたか。

Q2. 留学先での滞在費はどのようにまかなって
ましたか。（奨学金、仕送り、現地でのアルバイト、留学
前のアルバイトで貯金など）
仕送り、自分の貯金。

Q3. 1ヶ月の支出について伺います。

項目	現地通貨	日本円
食費		
家賃・寮費		250 \$ / ×4 (ステイ先での朝昼夜食込み)
光熱費		
交通費 (通学)		40 \$
交際費		
旅行費		
その他		
合計		

【留学を目指す人へのメッセージ】

留学したいというと「なぜ留学したいのか、なにを学びたいか考える。それが言語の習得やコミュニケーションなら考え直せ。その先がなければダメだ。」という人がいます。それは正論で、言語より高次元の目標があればその過程で言語は付いてくるし迷うことなく留学に打ち込めるはずです。しかし大学2年生か3年生の段階で「これが学びたい」というものがないのは言ってしまえば当たり前で、動機の不明瞭さを理由に留学を諦めたという話を聞くととても残念に思います。私も国際政治学への興味はありましたが一番に自分を支えたのは幼い頃からの漠然とした「英語をきれいに話したい」という思いでした。しかし結果として留学先で周りに触発され日本であまり勉強してこなかった私が夢中で勉強し、自分に向き合い考え、新たな世界を肌で体感し見聞を広め、その結果言語力も少しではありますが、向上させることができました。

今、留学を考えている人の中で何がしたいか、学びたいか明確な人がいたら、それは本当に素晴らしいことだし、留学先でしなければならないことがクリアな分、時間を有意義に使うことができ帰国後も成長をクリアに感じられると思います。ぜひそのまま留学を叶え、素晴らしい留学生活にしてほしいと心から思っています。たけどもし「これが学びたい」とは明確に言えないけどただ留学したいという人や「これが理由でいいのか」と悩んでいる人がいたら、まずチャレンジしてみてください。留学を通してきっとそれははっきりしてくれるし、自然とその見つけたものの為に頑張れるはずです。周りもきっとサポートしてくれます。留学にあたって、TOEFLは簡単ではないし情報集めなどは時に困難ではありますが、筑波大学に多くの協定校があり、留学を支援してくれる制度や先生たちがたくさんいます。応援しています。